

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生が定期的に研究成果を紀要等に公表しているか否かを検証する	→学生1名あたりの業績年間アウトプット数	A	A			
2. 学位審査で公開方式のプレゼンテーションを行う	→公開プレゼンテーションの開催率と参加者数	D	A			
3. 就学の基礎となる年限での博士学位の取得者割合	→就学3年次終了時における博士学位取得者の割合	D	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 本研究科発行の『経営戦略研究』『ビジネス&アカウンティングレビュー』(査読付き)、大学の『産研論集』(査読付き)のほか、学術誌に本課程の学生は積極的に投稿し、採択されている。2007年4月の入学者は6名だったが、うち海外転勤となった2名を除けば、4名が2010年3月に3年間の課程を終えた。このうち2名が修了時に博士号を取得した。2名とも社会人であることを考慮すれば、3年での博士号取得は特筆すべきと考えられる。また残り2名も2011年度内に博士論文を提出する予定である。
小項目6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 2010年2月に、博士請求論文提出者2名を対象に各2時間程度の公開審査・発表会を開催した。主査、副査に加えて、教員、学生の多くが出席し、公開性、透明性を確保して、学位授与審査が行われたと考えている。修了判定には多面的なチェックがかかり、研究内容のレベルも高い。
その他	

《評価指標データ》

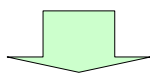
各学部における学生の進路状況
一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
3年卒業の適用者数
ジョイント・ディグリーの授与者数
標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	3年間の課程を終えた4名のうち、2名の博士号取得者を出すことができた。
★小項目6.4.2	博士論文公開審査兼発表会を実施しすることができた。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

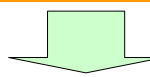
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

III. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 完成年次に達して一定の成果が挙げていることは評価できます。
- 今後は学位取得後、課程修了後の進路等についてもデータを蓄積していくことが期待されます。

【学内委員】

- 学位論文の提出による学位の取得や、論文の投稿による研究雑誌への掲載など、研究上の成果も生み出しつつあります。
- 目標に対して順調に進展しています。
- 目標の1、2は年度ごとの目標を積み重ねるもので、経年の数字などを表にして確認することは重要なことです。しかしながら、進捗評価が「A」のものも多く、中期的な目標を再設定されることをお考えください。
- 昨年度の学内第三者評価、ならびにそれに対する追加記述で示されたように、修了後のフォローや、学生の自己評価、外部からの評価もご検討ください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目6.4.1
基盤評価：なし
達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」
- 小項目6.4.2
基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」
達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. **学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述**

- ・学位取得者の進路のほか、在学中・修了後の研究業績をデータとして蓄積し、研究科の業務改善の一助にする。
- ・A判定が増え、より高い目標の設定を検討する。
- ★設置以降の年数が少なく、試行錯誤的な面があるのも事実であり、学内に限らず多くの他大学、企業等の学外者の意見を聴取し研究科運営に反映させていきたい。